

# スピリチュアリティを 仕事に生かすために、 見えない空間を意識する

スピリチュアリティは、あなたの中にあるのではなく、外にあるのでもなく、あなたと何かの間に生まれる。見えない第三の存在は、あなたの意志を聞いてくれます。仕事でもお金でも人間関係でもそれは、同じ。

秦 由佳



仕事の悩みを掘り下げていくと、ほとんどの人が「人間関係の悩み」に行き着きます。仕事を辞めたい、楽しくない、辛い、など表面的な問題は、職場の人との関係やお客さんとの関係に本質的な問題があることが多いとある調査でもわかっています。仕事が変われば、出会う人や関わる人が変わる。結局、内容よりも潜在的に重要視しているのが、人間関係だということです。

わたしはよく、人間関係を左右するのは、人の考え方や価値観などではなく、「人と人の間に流れている空気(空間)」であると伝えていきます。

たとえば、わたしと誰かの関係性は、わたしやその誰かが決めるのではなく、二人の間にある「見えない空間」によって変わります。ユーモア溢れる空気が流れたら、思わず二人とも笑ってしまいかもしれません。険悪な空気が流れていたら、どちらも本音を話さずじまらくなります。初めての相手とは、ぎこちなさや緊張感が流れるかもしれません。でも、ひとたび分かち合うことができる、空気がゆるんだような感じがします。こういった経験は誰もががしていることではないでしょうか。

どのような考えを持っていたとしても、最終的には「見えない空間」にある情報か関係性を決めてしまう、ということだと思います。実は、人間関係だけではありません。もちろん、お金との関係性も、社会との

関係性も、時間との関係性も、モノとの関係性も…。

今回、この寄稿の機会をいただいた時に、改めて『スピリチュアリティ』について、そして『仕事』について考えました。それは一体、どのようなもので、どのように存在しているのだろうか。まず、スピリチュアリティというものは、「見えない空間」に存在する掴めないものだと、思いました。

つまり、スピリチュアリティとは「自分の中にも、自分以外の中にもなく、自分自身とその他の世界の間にあるもの」である。

イメージは、ひとつの円とひとつの円の間に生まれる共有部分。ここにスピリチュアリティは生まれる、ということだと思います。関係性の中にこそスピリチュアリティが

発生する、と言っても構いません。この言葉は、どうしても「自分ごと」として完結させてしまいがちですが、自分自身のスピリチュアリティは、自分以外のその他がなければ生まれません、ということ。関係性の中で、スピリチュアリティが磨かれていく、ということも良いのではないのでしょうか。



「仕事」も同じです。自分自身と仕事との間に生まれる関係性が、その仕事へのスピリチュアリティを決める。そして、そのスピリチュアリティが、仕事から得る体感や経験、感覚や感情に影響を与える。そう、「仕事そのもの」ではなく、「仕事との関係性」が、自分のこころに影響を与える、ということ。です。